



世界と日本を考える真のリーダーを育成する

株式会社 不識庵

2023 Fushikian

「知る」ことは「変わる」こと

人は誰でも何事かを深く「知る」ことによってしか「変わる」ことはできない、と言われます。

例えば、もし、自分自身が「何も変わらな
い」と感じているとしたら、それはとりもな
おさず「今、自分は何も学んでいない」ことを
意味するといっ
てよいでしょう。このよう
に、人は「学び」、「知る」ことによってしか、
「変わる」ことはできないのです。

人が何事かを深く「学び」、「知る」ための代
表的な方法は「読み」「教わる」ことです。もち
ろん、困難な仕事をあれこれ工夫してやり遂
げることで学べることも多いでしょうし、ス
ポーツや芸術に打ち込むことも何事かを深
く「知る」うえで役立つに違いありません。

私ども、「不識塾」が長年にわたって取り組
んできたのは、哲学や歴史など、リベラル
アーツの主要な文献を深く「読む」ことを通

して「人間とは何か」「人類文明の根源にある

問題とは何か」など、そう簡単には答えの出
ない問題に対して「問いを発し続ける」こと、
そして、そのための思考を深め、塾生同士や
講師、師範などとの徹底した議論の機会を提
供することでありました。

果たして、そのような活動が何かを深く
「知る」うえで役立ったのかどうか、明確に
はわからないというのが正直なところ です
が、「不識塾」修了生の中には、明らかに言葉
遣いや人に接する態度が変わったとみられ
る人は少なくありません。例えば、入塾時は
自信たっぷりだったのに、卒業するころに
は別人のように謙虚な態度に変わったとい
うようなケースです。おそらくその人は、そ
れまで信じてきた世界観を改めざるを得な
いような、何かこれまでと違う世界を垣間
見る（知る）ことができたのではないかと思

うのです。

いずれにせよ、「不識塾」は令和五年度（第
十四期）も引き続き募集を行うことになりま
した。かくも長きにわたって「不識塾」を続け
られるのも、ひとえに派遣元企業関係者の皆
様の「不識塾」に対する深いご理解の賜物で
す。改めて厚く御礼申し上げます。

皆様と、来期「不識塾」でお目にかかれるこ
とを心待ちにしております。

「不識塾」塾長

中谷 巖



「不識塾」の特徴

◆リベラルアーツ研修の豊富な実績

「不識塾」は二十年以上にわたる大手企業の経営幹部を対
象にした研修の実績があり、本格的なリベラルアーツ研修
を実施する過程で、各分野の専門家との強力な知的ネット
ワークを築きあげてまいりました。これが「不識塾」の最
大の強みの一つです。

◆「師範会議」中心の講座運営

リベラルアーツは非常に幅が広く、また奥が深いため、
哲学、社会学、歴史学、経済学の専門家や現職の経営
者など、トップクラスの専門家数名に「師範」になっ
ていただき、カリキュラム作成や講座運営について全面的
に協力をお願いしています。

◆講師、師範、塾生間の「双方向の対話」

講義を拝聴するという受け身の研修ではなく、与えられ
た課題について6〜8名のグループが全員の前でプレゼン
をすることから毎週の講座が始まります。その後、講師や
師範を交えた議論へ移りますが、プレゼンをグループ毎に
創り上げるプロセスが塾生間の相互研鑽に大きな力を
発揮します。

◆原則、土曜日に開講

通常の勤務をしながら受講できますが、グループ発表準備に
向けて、塾生が集まって議論を深めるプロセスが必要になり
ます。ただし、新型コロナウイルスの感染状況により、オンラ
インによる討論も可能です。

◆講座内容についてのフィードバック

塾生を派遣していただいている企業の経営者や関係部署の皆様
に対しては、講座の活動内容を詳細にお伝えするニューズレター
をお送りいたします。さらに、著名講師を招いた公開講座を
毎年開催し、派遣元企業の皆様をご招待いたします。

「不識塾」という名前の由来

「不識」という言葉は、インドの高僧達磨大師と、中国梁の武帝
とのやり取りに出ています。

武帝：私の前に立つお前は一体何者なのか。
達磨大師：「不識」

達磨大師は「私たちの知識は不完全なものであり、例えば、自分
自身が何者かさえもわかつているとは言えない。従って、まずは自
らの無知を謙虚に認めなければ、物事の普遍的な理解に到達す
ることはできない」ということを伝えたかったと言われています。
「不識塾」の学びの姿勢は、表面的な理解で分かったつもりになら
ないように、ということに尽きます。

今年の「不識塾」パンフレットは、江戸の庶民に親しまれ、宴の場で人々を
大いに楽しませたであろう「染付大皿」（直径 40cm を超すようなものもある）
を集めました。「染付」は、白磁にコバルトなどの顔料で絵付けをし、透明の
釉薬をかけて焼き上げた現代人にもなじみ深い磁器です。白と青の二色という
シンプルな構成なので食材や料理と色がかぶらず、食器として重宝されました。
食べ進むうちに、鯉や鼠、兎や鶴、亀などが楽しそうに遊び、唐獅子や龍虎
などの聖獣も暴れ出す「江戸好み」の図柄が見えてきて何とも楽しいですね。

掲載絵皿出典：ColBase (https://colbase.nich.go.jp/)

作品名

表紙・裏表紙

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12

表-1 染付山水丸文輪花大皿
表-2 染付吹墨棒文大皿
表-3 染付鯉図木瓜形大皿
表-4 染付壺気楼図棧花大皿
表-5 染付雲鶴文大皿
表-6 青磁染付鶴亀図菊形大皿
表-7 染付橋に鶴図富嶽形大皿
表-8 染付丸文散大皿
表-9 染付鶴聯文大皿
表-10 染付龍人物図輪花大皿
表-11 青磁染付竹に虎図大皿
表-12 染付鶴亀甲散文皿

裏-1 染付日の出兎図皿
裏-2 染付波に雲鶴図大皿
裏-3 染付獅子牡丹図皿
裏-4 染付岩鷹図大皿
裏-5 染付山水文六角大皿
裏-6 染付獅子牡丹図大皿
裏-7 染付雲龍文輪花大皿
裏-8 染付唐子雪遊図輪花皿
裏-9 染付富嶽に帆船図皿
裏-10 染付山水蛭狩図大皿
裏-11 染付芭蕉に鶴図大皿
裏-12 染付洗象図大皿

「不識塾」カリキュラム概要

4月	事前課題に取り組む	塾生のレベルを揃えるため、「不識塾」が厳選した基礎的な書籍を、開講前にお読みいただきます
5月	第一モジュール（5～7月） 人類文明史を概観	- 世界の宗教、哲学、歴史、文化芸術などを通じて人類の歩みを学び、世界を理解するための歴史観と大局観を養う - グローバルに通用する高い見識を身につけ、世界とのコミュニケーション能力を磨く
6月		
7月		
8月	第二モジュール（8～10月） 日本をより深く知る	- 日本という国の成り立ちや歴史を知り、日本の立ち位置や、日本企業の競争力の源泉について考える - 日本文化の真髄、日本人の自然観などを認識することにより、自分自身が何者であるかを学ぶ
9月		
10月	フィールドワーク	日本を深く知るためのフィールドワークを実施
11月	第三モジュール（11～12月） 変貌する資本主義世界	- 現代資本主義世界が直面している問題の根幹にあるものを学び、企業のあるべき姿について考える - AIや生命科学、パンデミックやロシア・ウクライナ戦争などがもたらす文明的転換が人間にとっていかなる意味を持つかを考える
12月		
1月	第四モジュール（1～2月） 激変する世界と 自社への提言	- 世界の将来ビジョンを踏まえ、自社のあるべき姿をゼミ形式で考える - 塾生は各社トップの前で「自社のあるべき姿」について最終発表を行う
2月		



染付柳に馬図皿



染付大根鼠輪花皿



染付水葵に兎図大皿



染付蘭船雲龍図大皿



染付異国風俗文大皿



染付水仙に婦人図皿

2023年度 募集概要

目的	歴史的、文明論的視点から世界の構造を見極め、同時に、日本の持つ強さや問題点を洗い出すことにより、世界に通用する見識とリーダーシップをもつ経営者を育成する。
対象	将来、経営を担うと嘱望されている人材。執行役員、もしくは部門長クラスの方々。
期間	2023 年 5 月中旬～2024 年 2 月中旬 ※ただし、4 月初旬より事前課題あり
合宿	フィールドワーク（3～4 日の国内研修）のほか、1 泊 2 日の国内合宿を数回実施（国内合宿の交通費を除き、受講料に含まれます）
教材	年間 50～60 冊程度の書籍（受講料に含まれます）
定員	約 30 名（定員になり次第、締め切らせていただきます）
申し込み	第一次募集締め切り・・・2022 年 12 月末日 第二次募集締め切り・・・2023 年 2 月末日（第一次募集で定員充足の場合、第二次募集は中止します）

組織概要

名 称	株式会社 不識庵	住 所	東京都千代田区内神田 1-14-4 4F
創 業	平成 22 年（2010 年）2 月 22 日	電 話	03 - 3292 - 0320
代表取締役	中谷 巖	e-mail	office@fushikian.jp
活動内容	大手企業経営幹部向けの「不識塾」、中堅ビジネスリーダー向け「青天白雲塾」に加え、個別企業のニーズに応じた企業内研修（中堅管理職、部長研修、役員研修など）についても随時、相談に応じております。		
塾の詳細、応募方法などについては、ホームページもあわせてご覧ください www.fushikian.jp			

これまでの主なゲスト講師（敬称略・50音順）

青柳正規	東京大学 名誉教授・元文化庁長官・多摩美術大学 理事長
五百旗頭真	防衛大学校 名誉教授・神戸大学 名誉教授・兵庫県立大学 理事長
伊東俊太郎	東京大学 名誉教授・国際比較文明学会 終身名誉会長
猪木武徳	国際日本文化研究センター 元所長・大阪大学 名誉教授
岩井克人	東京大学 名誉教授・国際基督教大学 特別招聘教授
遠藤 乾	東京大学大学院 法学政治学研究科 教授
大澤真幸	社会学者
大屋雅裕	慶応義塾大学 法学部 教授
岡本隆司	京都府立大学 文学部歴史学科 教授
岡本裕一郎	玉川大学 名誉教授
小川さやか	立命館大学大学院 先端総合学術研究科 教授
片山杜秀	慶応義塾大学 法学部 教授
亀山郁夫	名古屋外国語大学 学長・東京外国語大学 前学長
菅野覚明	東京大学 名誉教授・皇學館大学 特別招聘教授
北岡伸一	国際協力機構(JICA) 前理事長・東京大学 名誉教授
小杉 泰	京都大学 名誉教授・立命館大学アジア日本研究所所長 教授
小原克博	同志社大学 神学部 教授

これまでの主な派遣企業（50音順）

味の素株式会社	株式会社クラレ
アスクル株式会社	株式会社小松製作所
出光興産株式会社	サッポロホールディングス株式会社
伊藤忠商事株式会社	信越化学工業株式会社
インフロニア・ホールディングス株式会社	スカパーJSAT株式会社
AGC 株式会社	住友商事株式会社
ANAホールディングス株式会社	住友林業株式会社
SCSK株式会社	ソニー株式会社
株式会社NTTドコモ	武田薬品工業株式会社
ENEOSホールディングス株式会社	株式会社竹中工務店
沖電気工業株式会社	ダイキン工業株式会社
株式会社オリエンタルランド	株式会社ダイセル
オリックス株式会社	株式会社大和証券グループ本社
関西電力株式会社	大和ハウス工業株式会社

佐藤弘夫	東北大学 日本学国際共同大学院 特任教授
佐藤 優	作家・元外務省 主任分析官
下斗米伸夫	法政大学 名誉教授・神奈川大学 特別招聘教授
白石 隆	政策研究大学院大学 前学長 名誉教授・熊本県立大学 理事長
中島隆博	東京大学 東洋文化研究所 教授
中島岳志	東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院 教授
納富信留	東京大学大学院 人文社会系研究科 教授
野中郁次郎	一橋大学 名誉教授
橋爪大三郎	社会学者・東京工業大学 名誉教授
松岡正剛	編集工学研究所 所長
三谷 博	東京大学 名誉教授
森本あんり	国際基督教大学 名誉教授・東京女子大学 学長
山折哲雄	宗教学者
山極壽一	総合地球環境学研究所 所長・京都大学 前総長
山下裕二	明治学院大学 文学部芸術学科 教授
頼住光子	東京大学大学院 教授
渡辺 靖	慶応義塾大学 環境情報学部(SFC) 教授

中外製薬株式会社	東日本旅客鉄道株式会社
帝人株式会社	株式会社日立製作所
テルモ株式会社	BIPROGY 株式会社
DIC 株式会社	富士フイルム株式会社
株式会社デンソー	株式会社ベネッセホールディングス
東急株式会社	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
株式会社東芝	ポリプラスチックス株式会社
東レ株式会社	三井不動産株式会社
株式会社トプコン	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
トヨタ自動車株式会社	横河電機株式会社
日産自動車株式会社	楽天株式会社
日本郵政株式会社	株式会社リクルート
NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社	株式会社リコー
株式会社博報堂	株式会社良品計画

修了生の声

本気で議論する時間の大切さ

塩飽 俊雄

ポリプラスチックス株式会社
代表取締役社長



（2013年度受講・12期生／2022年9月ご寄稿）

社会から求められること

安江 伸一

株式会社三菱UFJ銀行
執行役員
営業本部営業第十二部長



（2018年度受講・17期生／2022年9月ご寄稿）

変化に対応する思考を身につける

天野 寿人

ENEOS株式会社
執行役員
新規事業デザイン部長



（2018年度受講・17期生／2022年9月ご寄稿）

不識塾では、歴史や哲学的課題、時事問題、最後は自社について、多くのひとの議論を通じて自らの考えを深めていきました。このプロセスは、いかに自分の最初の「答え」が浅かったか、知ることの繰り返しでした。

一人で考えることには限界があります。塾生、師範、講師と本気の議論をしなければ、他者の視点を自分の中に取り込むことはできません。身を削り合う双方向の真剣勝負でした。

私は今も経営で、どれだけ本気で議論できるかを求めていると思います。ガバナンスや意思決定の透明化は、仕組みに頼るだけではなく、経営メンバーの真剣な議論を通じてのみ「実体」が確保されるのだと思います。不識塾は、自分が知らないことに気づく時間でした。

トランプ政権の誕生とBrexitに象徴される「先進国の国内での分断」が顕在化した時期に不識塾で学びました。競争が社会の発展を生み出すという資本主義と公平・平等を担保する民主主義の二つのシステムという組み合わせが綻びを見せている時代に、不識塾で古今東西の世界を学び、日本を見つめ直し、社会システムの変化の方向性や先端テクノロジーの是非を互いに議論したことで、社会に求められていることに常に立ち戻る大切さを強く感じ、私の軸になっています。同期の塾生に巡り会えたこともとても大きな財産です。

我々を取り巻く環境は今大きく変化しています。新型コロナウィルスの流行に伴う生活様式の変化、AI・ビックデータを駆使したデジタル技術の発展、消費者ニーズの多様化による購買行動の変化、持続可能な社会の実現等。

私は不識塾の研修を通じて、現代社会の課題を改めて認識すると共に、自身が持つべき価値観や思考を再構築し、変化に対応するためには「しなやかさ」が重要であるとの学びを得ました。

皆様も不識塾という名の知的格闘道場にて中谷塾長のおっしゃる「OSのバージョンアップ」を実現されてはいかがでしょうか。



染付扇面楼閣山水図大皿



染付日本地図大皿



染付七宝草花文大皿



染付葉に藕図皿



染付沢瀉に鶯図輪花大皿



染付群鳥文輪花皿